


ふりがな 氏名	もりした たかし	都道府県	大阪府	
	森下 貴史			
所属/肩書	桃山学院大学 教務部教育支援課 / 職員			
私のESD活動	大学職員として学生、地域の方々に継続的な教育や教育の種を与える			

活動の概要

大学職員に奉職して11年目になるが、これまで「キャリアセンター」「教育支援課」という部署で勤務してきた。その中で、ただ学生を就職させる、ではなく将来継続的に社会に貢献できるような人材を育成してきた。加えて現在の業務では、教員を希望する学生のサポートや地域の教育現場との連携業務がある。その際も、『大学』という多くの学生が最後となる教育機関の使命として、学生、地域に最大限の効果を見出せるよう貢献してきた。この行動が今後の世界を担う若者の教育、次の世代となる子どもたちの教育にもつながっていると自負している。具体的には、地域の学校園等のボランティア活動に積極的に学生を派遣し、交流することによる地域貢献である。大学生という子どもたちにとっては少し上の世代との交流をはかることにより、大学生、子どもたち双方にとっての人格の発達の支援を行っている。また、時には学校の授業において、本学教職員、学生を派遣することにより、環境や貧困、社会について、国際的理解について等を学ぶ機会を設けてきた。

これらのような活動を数年間行ってきていることが私のESD活動である。さらに今年度はSDGsに関する新たな活動も計画し実行に向けて取り組んでいる。

今後の活動や協働への展望

○今後発展させたいESD活動について

- ・本学に関わるステークホルダーへさらなるESD活動の注力、考え方の周知をはかる。
- ・大学に関連する方々だけではなく、もっと幅広い世代・地域の方々にも活動を発展させる。

大学職員として出来るESD活動はもっと潜在的にあると考えている。また部署が変わったり、新規業務あれば活動の幅もさらに広がっていく。

現在行っていることが自分の完成形と捉えるのではなく、向上心を持って学び続けることを心がけたい。そしてこの考え方が一番のESD発展につながると考える。

将来的には幅広い世代、地域の方々に伝えられるようになることも目標としている。

○ESD日本ユースの一員としての協働について

- 一大学職員として、一社会人として、一日本人として、一世界の市民としてESD活動に幅広く協働したいと考える。
- このコンファレンスで得た人脈・ESD日本ユース・コンファレンスに参加した経験を自分の財産として、行動していきたい。